

# 「RPA (Robotic Process Automation) を用いた胃 ESD 早期警戒スコア (G-ESD-EWS : Gastric-ESD Early Warning Score) の有効性の検討」について

## ○情報公開対象者

早期胃癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を施行された患者さんを対象としています。対象期間は 2026 年 2 月から 3 年間で予定しております。本研究は、胃 ESD 後の術後管理において、既存の診療情報 (内視鏡所見、既往歴、内服歴、術前・術後バイタルサイン等) を用いたリスク評価支援システムの有用性を検討するものです。

## ○研究の意義・目的

胃 ESD 後の術後管理では、ESD 自体の侵襲度や出血リスク、基礎疾患、内服薬情報に加え、術前から術後にかけてのバイタルサインの変化を総合的に把握する必要があります。しかし、実臨床では複数の術後患者を同時に管理する必要があり、医療者の経験や業務状況によって患者把握にばらつきが生じる可能性があります。本研究の目的は、RPA を用いて既存の診療情報を自動的に集約・可視化し、胃 ESD 後患者における出血や鎮静関連合併症などの偶発症を含む複合イベントを早期に検知する体制を構築できるかを検討することです。本システムは診療判断を代替するものではなく、医療者の判断を支援することを目的としています。

## ○研究の方法

本研究は、通常診療で得られた診療記録を調査・解析する非介入型の観察研究です。患者さんへ新たに検査や治療を行うことはなく、原則として直接のご連絡も行いません。収集した情報は、氏名や生年月日など個人を特定できる情報を削除したうえで研究に使用します。

## ○研究期間

研究期間は倫理委員会承認日から 2029 年 3 月末日を予定しております。

## ○個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

## ○共同研究期間について

本研究は当院単独で行いますので、共同研究期間はございません。

## ○ 本研究の利益相反について

本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせ下さい。

\* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることは有りません。

.....  
お問い合わせ先

〒731-0293 広島市安佐北区亀山南 2-2-1

T e l : 082-815-5211

広島市立北部医療センター安佐市民病院

消化器内科 主任部長 永田 信二 (研究責任者)

内視鏡内科 部長 嶋田 賢次郎 (担当者)

消化器内科 医師 進藤 源太郎 (担当者)